ついに入居者からコロナ陽性

どうする?!　おおすか苑

発表者　介護職員　山下広美
介護職員　金原弓子

社会福祉法人　大須賀苑

当施設は、平成4年に開設された特別養護老人ホームです。

「利用者一人一人がその人らしく自立した生活を営むことができるように支えることを目指す」を法人理念として日々支援しております。

特別養護老人ホーム（従来型）50床

ショートステイ20床併設

特別養護老人ホーム（ユニット型）30床

通所介護

居宅介護支援事業所

地域包括支援センター

小規模多機能型居宅介護

認知症対応型共同生活介護

目的

- 令和5年2月、従来型で入居者2名、職員1名の新型コロナウィルス陽性者が出た

  この時の対応から今後の感染症対策を考える

コロナ禍前より行っている感染症予防策

- 全職員就業前に健康チェック
  コロナ禍になり、チェック内容見直し
  毎日チェックし月末提出

- 法人全体で清掃の時間を設けている（必ず換気も行う）

- 「感染症を広げないために」研修会を繰り返し毎年実施している

従来型（なごみ）について

- 入居者：女性　29名　男性　5名　計34名
- 介護職員8名　看護師1名

新型コロナウイルス発生時の対応

- 2階職員専用通用口や休憩室の確保
- ゾーニングの実施と職員への説明
- ガウンテクニックの方法・注意点の掲示
- 必要備品のチェック・補充・購入
- 職員の衣類の確保
- 厨房との打ち合わせ
- 入居者の居室の移動
- 家族や他事業所への連絡
- 細かいルールの打ち合わせ

新型コロナウイルス発生時の対応

- 他部署の応援を入れずにユニット職員のみで対応することを決定する
- 食事類はすべて使い捨て食器で提供
- 出勤職員分の消毒ボトルを配布

2月22日	なごみ入居者2名発熱→抗原検査陽性 職員１名　抗原検査陽性 職員ガウン着用 検温２回実施 なごみ：すべてイエロー、風呂場グリーンゾーン すぎ、たけ→レッド（立入禁止）とする ・同じ部屋で過ごされていた２名濃厚接触者ということで、すぎ：２名、たけ：２名という状況を作る。そのため他の女性の方、４人部屋に５人入っていただきの生活をしていただく。 ※２階入居者家族に電話連絡、ショート利用者連絡、事業所にはファックスする	床にテープ貼りゾーン分け 物品準備
2月23日	入居者１名発熱→抗原検査陰性　状況昨日と変化なし すぎ、たけ→レッド（立入禁止）	部屋の状況色塗り 張り紙作成 ・しっかり全部着てますか ・ガウン着脱場所 ・２階職員専用（陽だまり） ・靴底消毒 洗濯物を少なくする促し 食事の容器紙カップ購入 養生テープ購入

2月24日	入居者状況変更なし 掃除用具確認：2階フロアーでルビスタ、3箱使用する予定とのこと手配する １階、ユニットへ書面郵送（少し遅れた）	手動噴霧器購入10ℓ用2台
2月25日	・陽性者以外の方の抗原定性検査実施（32名） →全員陰性、家族へ電話連絡をする。	ヘアキャップ購入
2月26日	・変わりなし ・陽性者と陽性者と同室だった方以外の場所掃除を実施　居室、廊下、食堂、スタッフルームルビスタ使用3箱 ※職員1名（1階）検査陽性	

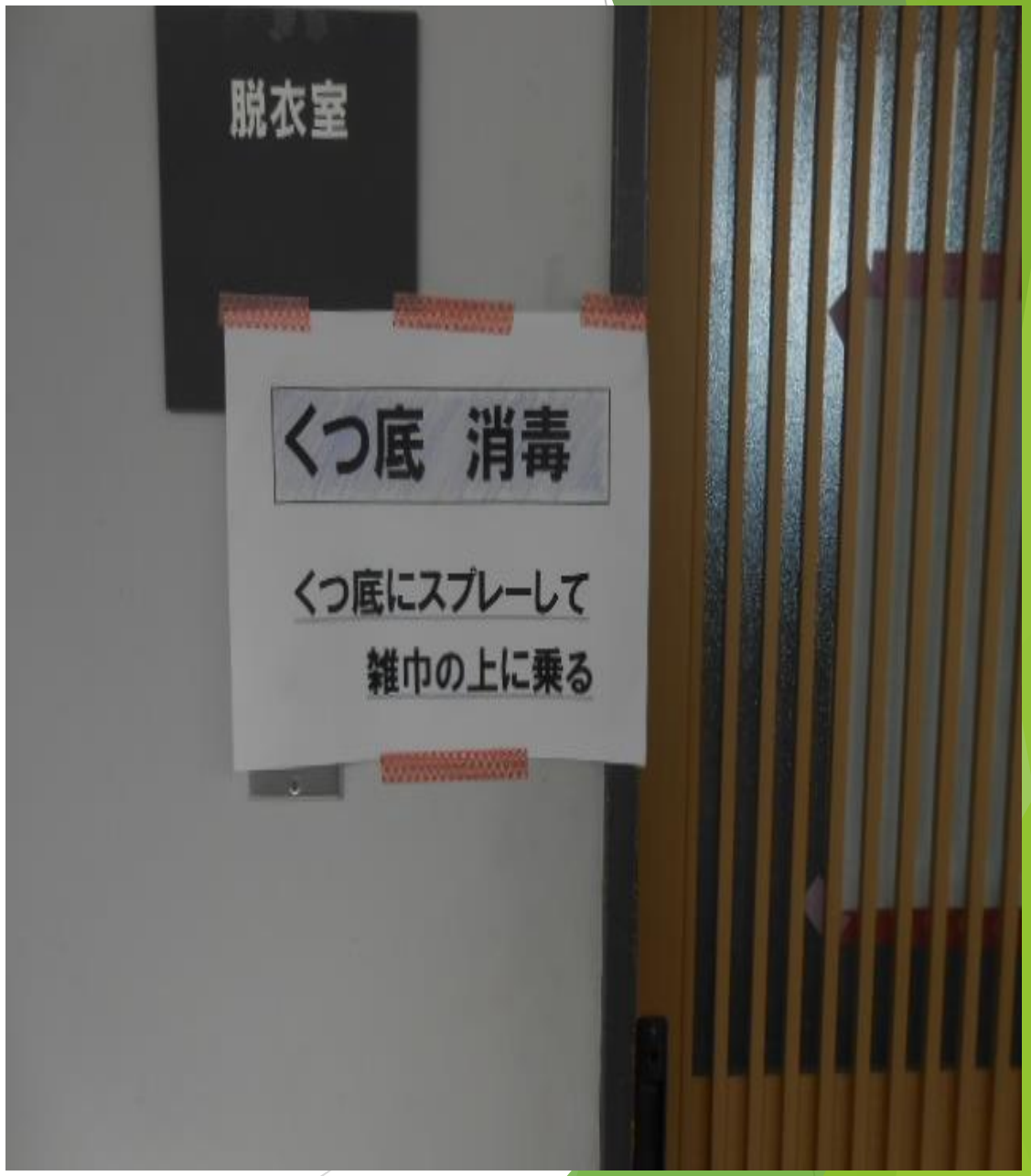
洗濯物を減らしましょう

食事用エプロンは必要最低限で！

ウェットティッシュ や ペーパータオルを使いましょう!

2階エレベーター上がった場所
グリーンゾーン

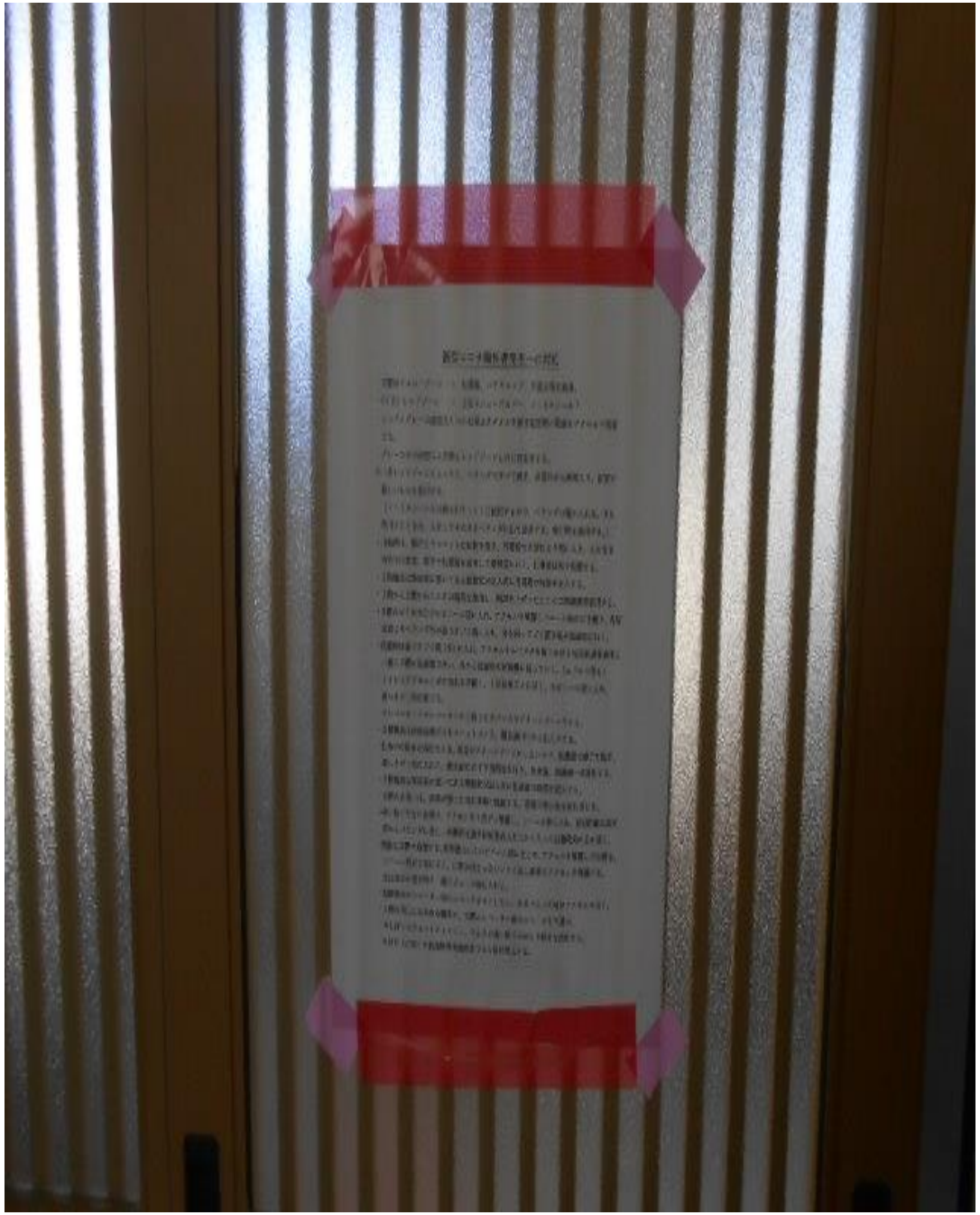
しっかり全部
着てますか？


脱衣室
くつ底　消毒
くつ底にスプレーして
雑巾の上に乗る

2階風呂場前に着方手順
貼り付け

しっかり全部
着てますか？

ひと呼吸して　確認してみてね

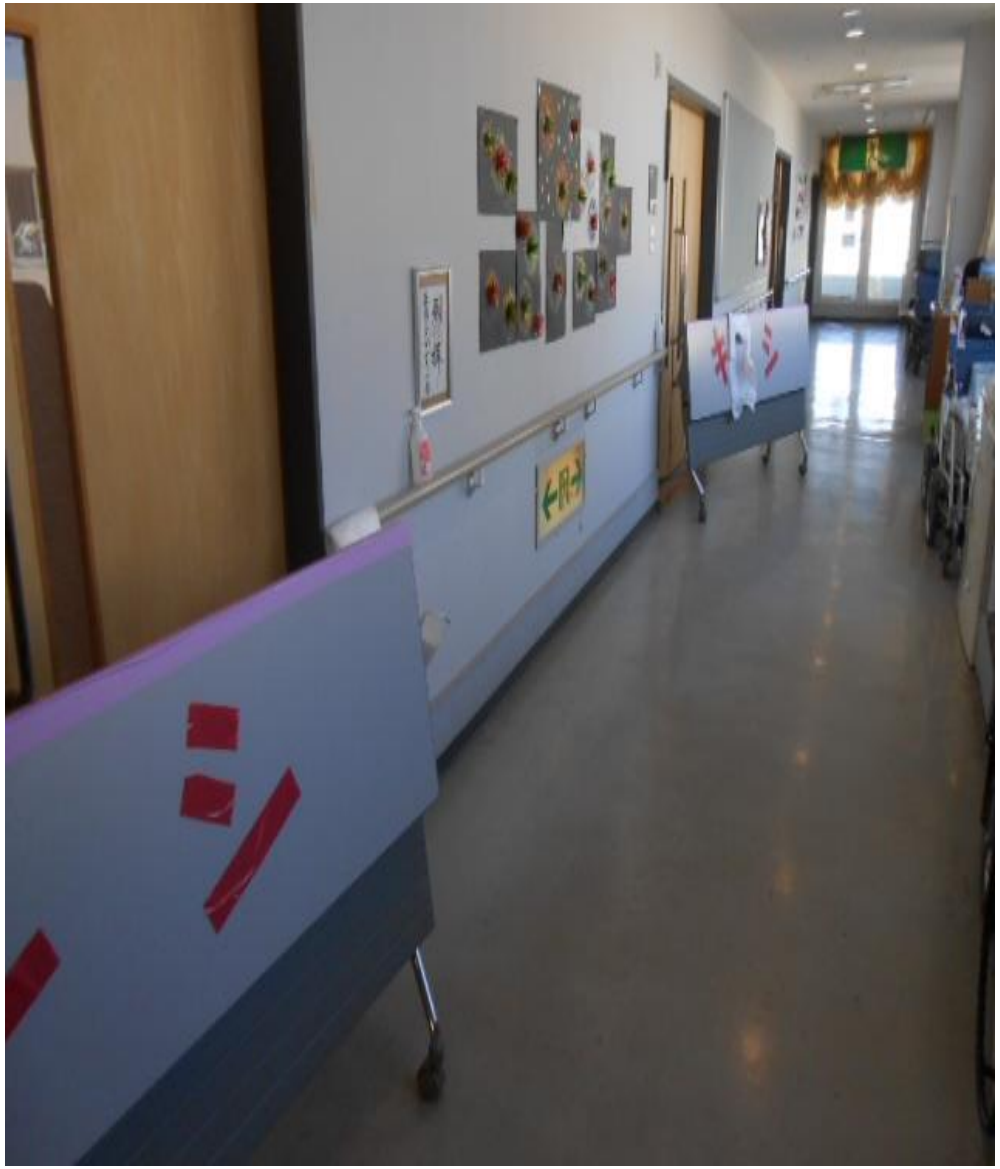


この場所では
飲み物だけです。
食べ物は食べません。

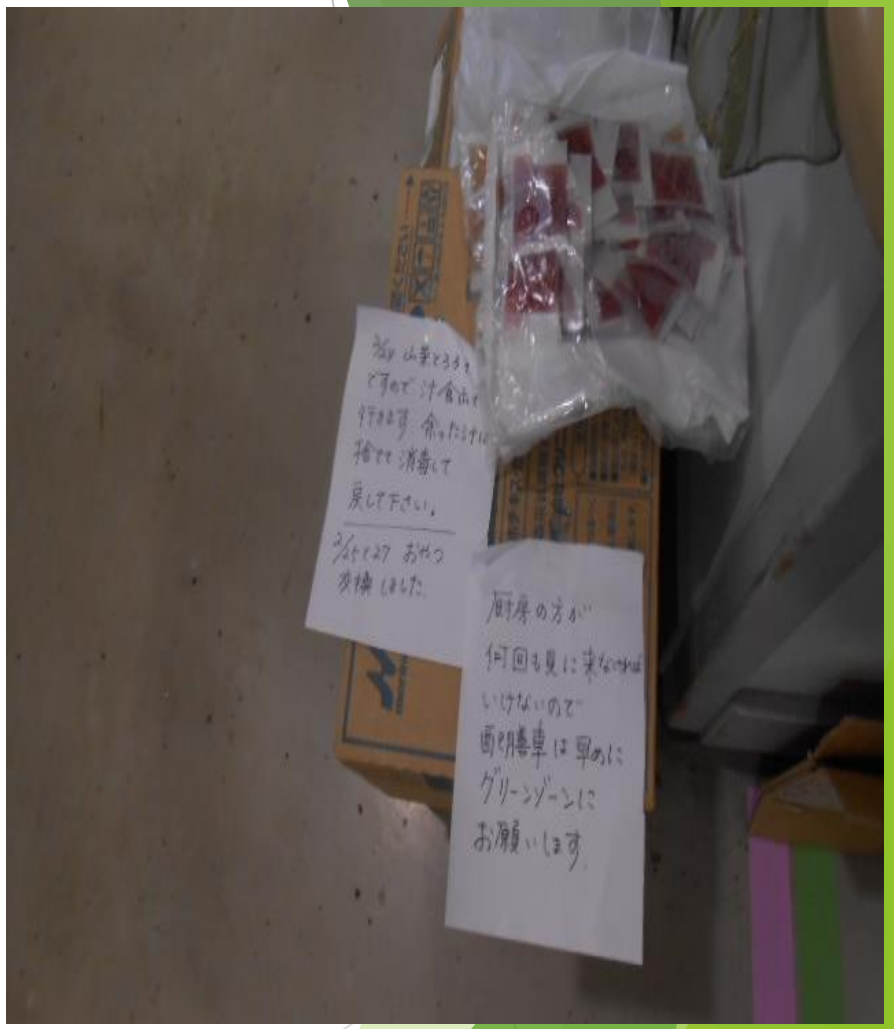
2階非常口からのグリーンとグレーの区分け

2階職員休憩室確保

仕事着



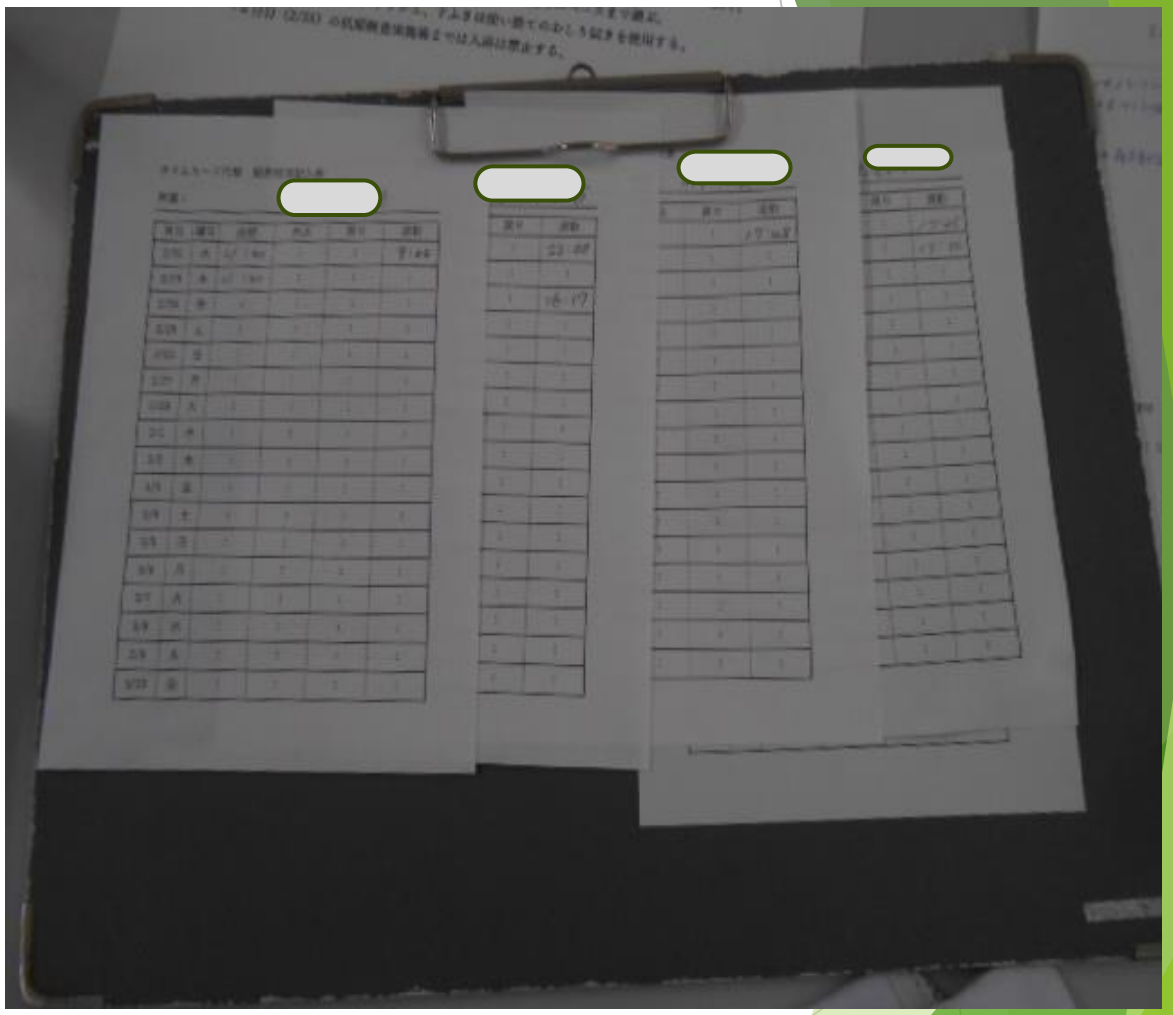
陽性者の方の居室入口



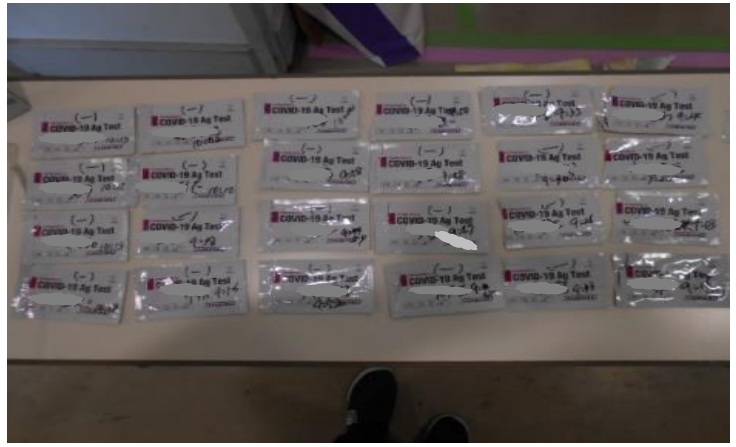
使い捨て食器
食べ残し
ごみ袋に入れて捨てる

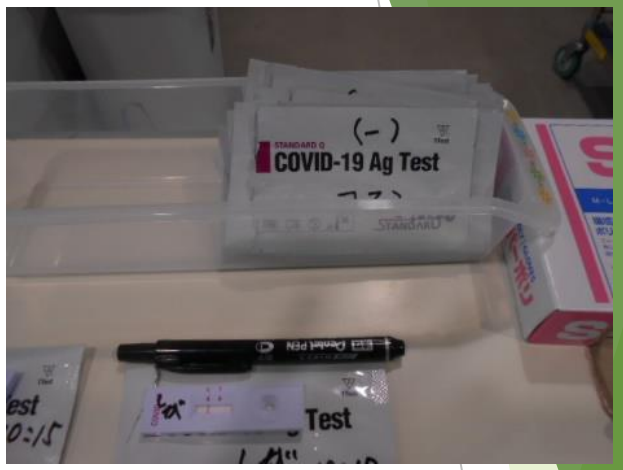
食事に関しての注意

2階ベランダへごみを出す

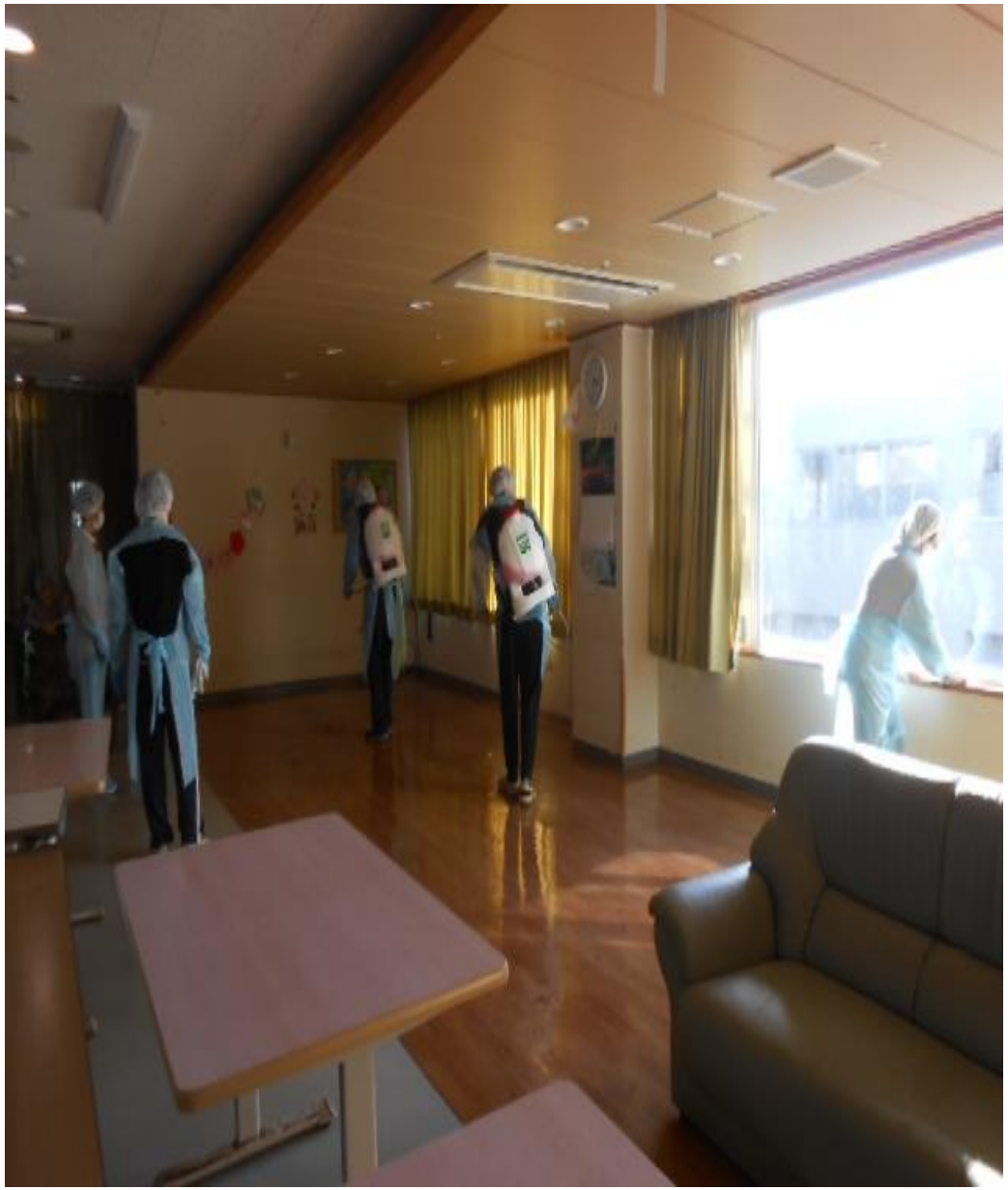


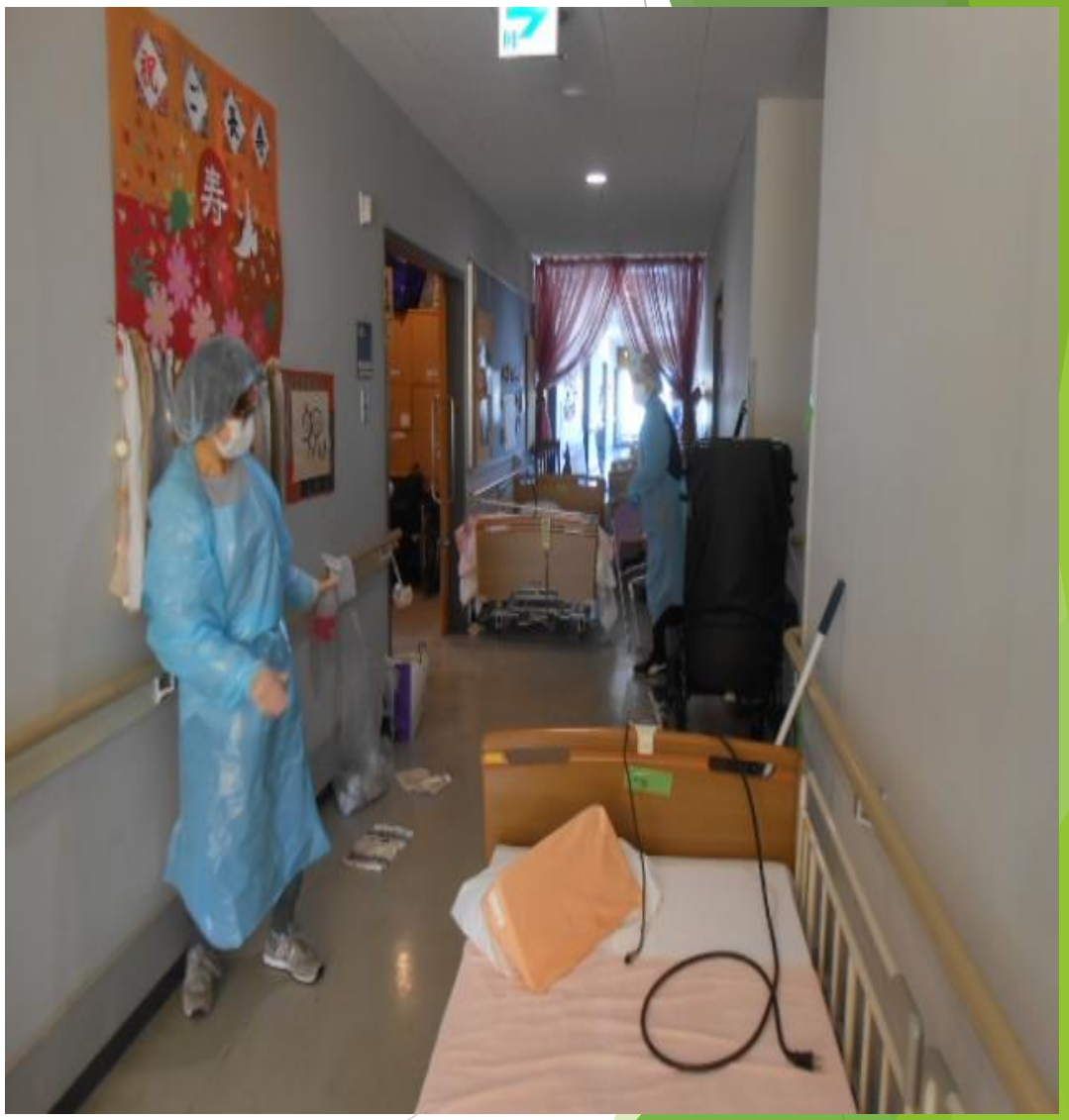
2階職員の出退勤　記載表





2月２５日　陽性者、濃厚接触者以外の方の抗原検査を実施





2月27日	・職員1名（2階）検査陽性。職員自体は22日から休みだったが、26日に出てこられ、掃除に参加。その際には特に体調異変はみられなかった状況。 陽性となった職員が26日に使用した場所の清掃を行った。	ヘアキャップ購入
2月28日	・状況変わりなし。	
3月1日	・状況変わりなし。	
3月2日	・陽性だった2名検査実施する。１名抗原検査陰性、１名抗原検査陽性反応あり。 ・陽性者、濃厚接触者の方の車いす４台ルビスタにて洗浄する。	
3月3日	・陽性者となっていた、ご家族に医務から検査結果の連絡を取ってもらう。 ・陽性者であった１名本日も抗原検査にて陰性であったため、本日隔離解除になる。 ・濃厚接触者（グレー）となった方の部屋、ベッド洗浄する。隔離解除する。 ・昨日検査で陽性反応のあった方、本日も陽性反応がでる。 ・濃厚接触者となった方と陽性となった方の３人で現在１部屋利用となっている。 ・５人で１部屋利用継続中。	

3月4日	・入居者1名が抗原検査陽性が続く。	
3月5日	・入居者1名が抗原検査陽性が続く。	
3月6日	・抗原検査陰性になる（1回目）。	
3月7日	・抗原検査陰性になる（2回目）。 ・隔離解除となる。	

結果

- 入居者２名、職員１名で終息できた
- 最終終息までが１５日要したことで不安が募った
- 施設内併設サービスを普段通り稼働させることができた
- 多職種との共同で対応できた
- ディスポ物品の配備されていない状況が明らかになった

評価

- 研修を何度も受けていたこと、実践、経験ある職員が配置されていたことにより実際の動き、ガウンテクニック等に戸惑うことがなく対応ができた
- 通常の勤務ではない状況の中、体調を崩すことなく従事できた
- テープを色分けしたことでゾーニングが分かりやすかった

評価

- 色々なところに張り紙をし、見てわかるように注意喚起を促せた
- 対応の変更時は必ず文書が出された
- ごみやリネン類を施設内を通ることなく外に出せた
- 他部署の応援を入れずにユニット職員のみで対応できた
- その日のレッドゾーン対応職員を固定できた

考察

- コロナ禍前より行っている以下の感染症予防策の実施が感染拡大を防いだ

  全職員就業前に健康チェック

  法人全体で清掃の時間を設けている（必ず換気も行う）

  感染症を広げないために毎年実施している研修会

- 対象となったユニット職員との接触をしないことで感染拡大を防いだ　出勤時から退勤時まで　入り口も別とした

考察

- レッドゾーン対応職員を固定して対応したことで拡大を防いだ
- 他からの応援体制をとらなかったことが拡大を防いだ
- 情報伝達を可視化したことで共有でき、対応に迷いがなかった

課題

- 感染症に対するマニュアルの見直し
- 看護師や他の職種のフロア内への出入りの仕方
- 感染症対策のための物品の整理や補充
- 夜間帯の行動（ゾーニング内の移動の仕方）
- 入居者の清潔保持
- 入居者の日中の過ごし方
- 認知症の方の対応
- 情報をやり取りするICT機器の活用

ご静聴ありがとうございました